

氏名(本籍)	さかき ばら ひろ あき 榊原浩晃(愛知県)		
学位の種類	博士(体育科学)		
学位記番号	博乙第2393号		
学位授与年月日	平成20年7月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	イギリス初等教育の体育授業と課外ゲーム活動に関する歴史的研究 - 1870年代から1910年代を中心として -		
主査	筑波大学教授	博士(教育学)	阿部生雄
副査	筑波大学准教授	教育学博士	菊幸一
副査	筑波大学准教授	博士(体育科学)	齋藤健司
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	安川哲夫
副査	筑波大学教授	博士(教育学)	田中統治

論文の内容の要旨

(目的)

本研究は、イギリス初等教育法(1870)以後の体育授業と課外ゲーム活動に関する、それぞれの内容と制度の変遷を、第一次資料から描き出すことを目的にしている。具体的には、第一部「初等教育へのドリルの実施から体育授業をめぐる政策策定に至る過程」では、イギリス初等教育における体育授業の導入・実施過程を経て、体育授業の内容・方法論議と政策策定の経緯を明らかにすること、第二部「初等教育における課外ゲーム活動の振興方策とゲーム教材の重視」で、初等教育における課外ゲーム活動の公認の経緯を跡づけ、課外ゲーム活動の重視と体育授業へのゲーム教材の選択を明らかにすることにある。

(対象と方法)

イギリスの初等教育法が成立した1870年以降から、公立の初等学校でゲーム活動が重視されてくる1910年代に至るまでの、体育と課外ゲーム活動の変遷とその歴史的意義を第一次資料の分析から明らかにする。第一部では体育授業の原初形態としてのドリルの内容はなにか、②いつ都市部学務委員会立学校で体育授業がおこなわれるようになったのか、③体育受容の内容と方法の議論、④体育授業に影響を及ぼした階級、⑤体育授業に及ぼした軍事的、衛生的影響を問う。第二部では①上流・中産階級は初等学校や労働者階級師弟のゲーム活動にどのような価値観を持っていたのか、②教育院は初等学校の課外ゲーム活動にどのような価値を見出していたのか、③課外ゲーム活動のための諸条件はどのように整備されたのか、④ゲーム教材の採択に与えた課外ゲーム活動の影響、といった諸点に焦点を絞って明らかにする方法を採った。

(内容と考察)

第一部は、初等教育制定期におけるドリルの導入と、ドリルの義務教授規定である1871年教育規則の性格とその役割、地域の学務委員会の先導的役割と「体育」(physical education)の義務教育化を推進しようとしたMathias Roth、また「身体訓練」を義務教科にしよとしたEarl of Meathの貢献、ドイツ系の「体操クラブ」を設立する中でNational Physical Recreation Societyの結成を導き、体操講習会を通じて体操教師の専門性を

確立する上で重要な貢献を果たした Alexander の活動が論じられている。更に、教員養成学校における体育の教授能力の養成への動向、クロス委員会報告書（1888）における初等学校の身体訓練実施動向と地域の学務委員会の積極的な導入の取り組みが紹介される。更に、20世紀初頭になると、スコットランドの学校体育や軍隊体育の影響、初等学校終了後の青少年組織でありながら、初等学校の身体訓練の内容と制度に影響を及ぼした Lad's Drill Association の設立とその影響、身体訓練指導要目（1902, 1904, 1906）の制定、Chief Medical Officer の任命と衛生体育への移行が論じられる。

第二部では、19世紀末に中等教育を調査したブライス委員会報告書（1895）に一瞥しつつ、論点をパブリックスクールへの接続教育を担ったプレパラトリー・スクールでのゲーム活動に注目し、それが学務委員会下の初等学校や救貧法によって設立された初等学校と全く異なる活動であったことを指摘し、後者の課外ゲームが、主に、London Playing Fields Committee によるプレーイングフィールドの整備、学校フットボール協会による放課後のフットボール試合の組織化、教育院による初等学校課外ゲームの奨励と補修学級の整備によるものであったことが指摘され、1906の教育規則で教育員による課外ゲーム活動の認可がなされる経緯を指摘している。そうした課外ゲーム活動は、とりわけ、1911年における Departmental Committee on Playgrounds の設置、1914年の初等学校建築規則（Building Regulation, 1914）におけるプレイグラウンドの設置義務、「イブニング・プレーセンター規則、1917」等によって、主に学校外の活動として促進された。1919年の身体訓練指導要目は、教材としてゲーム活動を取り入れたが、初等教育の課外ゲーム活動は、次第に正課体育に匹敵する初等教育において固有な「ゲーム」の時間を形成し始めた点を指摘した。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、先行研究の成果を、何よりも原資料を用いつつ多くの点を補足したことに大きな意義をもつ。また、イギリス体育史に新たな成果をもたらした点で、高く評価できる。しかし、今後、初等学校の体育や課外ゲーム活動の比較史的研究から、イギリスの固有性を明らかにしてゆく課題と、イギリスのそうした体育・ゲームのシステムの歴史が持つ今日的な意義をより明確にしてゆく課題があると考えられる。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。